

スケールアップの観点から光触媒の評価軸を考える

三菱ケミカルの坂本と申します。この度はニュースレターへの寄稿の機会をいただきありがとうございます。

私は、十数年前に堂免先生の下で学生として水分解光触媒、特に助触媒担持方法の開発に携わった後、三菱化学（当時）に入社しました。入社後は“光の当たらない”触媒やプロセスといった研究に従事していましたが、数年前よりまた光触媒に関わる研究を担当しております。

と言っても、現在は光触媒材料そのものを扱っているわけではなく、光触媒を用いた水素製造の実用化を見据えた、プロセスのスケールアップについて検討しています。本稿では水分解プロセスのスケールアップという観点から、光触媒開発に関する私見を述べたいと思います。・・・